

ワークショップ7

「安全に消化管検査を行うための工夫 小児から高齢者まで」

司会 中山 佳子（信州大学医学部保健学科）

鎌田 智有（川崎医科大学健康管理学）

超高齢社会の本邦では、高齢者に消化器内視鏡検査や消化管造影検査などを行う機会が増加している。しかしながら、高齢者は偶発症のリスクが高く、併存疾患も多いため、適応判断には十分な検討が必要となる。内視鏡検査では、高齢者における使用薬剤や、抗血栓薬服用者への注意、安全に行える手技の工夫などが求められる。一方、小児 IBD の増加などを背景に、新生児から思春期の小児への消化管検査の機会も増加している。

本ワークショップでは、小児から高齢者において消化管検査を安全に行うための各施設での工夫について討論したい。積極的な演題応募をお待ちしています。